

No.189
2020.1.21

郷土

庄原コミュニティセンター報

令和元年12月31日現在
世帯数.....2,506戸
男 性.....3,548人
女 性.....3,783人
合 計.....7,331人

発行／庄原コミュニティセンター

出雲市安芸町津原3835 (電話)72-4600 (FAX)72-4602

つながる庄原 笑顔の未来
活かそう 人を 歴史を 資源を

新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、皆様方には当センターの事業の推進に格別のご支援とご協力をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。

本年も地域の皆様の「憩いの場」「交流の場」「学習の場」「まちづくりの場」として利用しやすく親しみやすいコミセンとなるよう職員一同取り組んでまいります。

ので、変わらぬご支援とご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸を念じ新年のご挨拶といたします。

庄原コミュニティセンター センター長 原 悟司

チーフマネジャー 岡 初枝

マネジャー 小松原由子・池淵陵子・糸川陽子

11/9
(土)

令和元年 交通安全キャンペーン

庄原地区青少年育成協議会

秋晴れの爽やかな日、庄原コミュニティセンター駐車場にて、交通安全キャンペーンを実施しました。FCひかわの皆さんが元気な声かけと共に、ドライバーの方達に交通安全チラシと記念品を渡してくれました。記念品は、庄原小学校4年生の皆さんが心を込めて作った手すき和紙のしおり(ひとつひとつ異なる手描きのイラストとメッセージ入り！)。皆さんも、安全運転を心がけましょう！



12/6
(金)

青パト&見守り反省会

庄原地区青少年育成協議会

日頃から町内の見守りをしていただいている青パト隊、学校帰りの小学生の見守りをしていただいている見守り隊の皆様で今年度の反省会を行いました。庄原小学校の石原典子教頭先生と斐川東中学校の足立紀佳教頭先生からは、犯罪の抑止力となっている青パト、見守り活動へのお礼を述べられ併せて学校生活の様子についてもお話ししていただきました。また斐川交番の曾田隆所長からは交通事故の現状、振り込め詐欺、子どもへの声掛け事案等、お話ししていただきました。

「子ども達の安全を守りたい」という想いと目的を同じくする皆さんが集い、日頃の活動や子どもたちの元気な様子を話され、和やかな会となりました。



「庄原小学校PTA70周年記念事業」にて15年以上活動している「庄原子どもの安全を守る会」に感謝状を頂きました。

青パト隊の皆さんには12月25日、26日の両日歳末パトロールに庄原地内を回っていただきました。昨年も大変お世話になりました。本年も安全安心な町づくりにぜひご協力をお願いします。



12/8
(日)

情報モラル講演会

「情報社会と人権～メディアと上手につきあうために～」

荘原地区人権・同和教育推進協議会

講師：今度珠美さん



情報社会の進展により私たちの生活は大きく変わり、たくさんの情報の中で便利な生活を送れるようになりました。その反面、あまりの情報の多さと、メディアの発達の高さそして便利さゆえに、様々な被害を及ぼしています。子どもたちを巻き込んだ事件事故も少なくありません。そこで鳥取県情報モラルエドゥケーターの今度珠美さんを講師にお迎えして、メディアの正しい知識と接し方を学ぶため、講演会を開催しました。

講演内容は、

- ネットから生まれる差別
- メディアリテラシーと人権
- ネット依存とネットとのつきあい方
- 人権侵害にあったら



でした。



「情報の真偽を見極める知識、教養がなければ、その情報が差別、偏見につながることに気がつかないまま、思わぬ人権侵害を犯す可能性があります。ですから、人権問題の勉強は一生しなければならぬ」という今度さんからの言葉は、説得力がありとても心に残りました。誰もが何かの多様なメディアと接している時代です。情報の真偽を見極め、正しい知識、人権教育、歴史教育を学び、人間性を高めていきたいと思います。これからの社会を担う子どもさんを持つ保護者の皆さんに、ぜひ聞いていただきたい内容の講演会でした。

健康

スポーツ部

11/26
(火)

健康まつり

「笑う門にはいい地域」を開催して

健康スポーツ部部長 小松美夫



まず主催した健康スポーツ部についてご案内いたします。荘原コミュニティセンターには5つの部会があり、総務部、まちづくり部、ふれあい交流部、こども倶楽部、健康スポーツ部で構成されています。健康スポーツ部の今年度の事業は、桜ウォーク(4月)、大黒山登山、荘原地区文化祭での健康チェック、そして「健康まつり」を計画し開催しました。また他部への交流参加等も行っています。

さて、「健康まつり」では、中村学さん(55歳・大田市出身)をお招きして表題のテーマで講演をしていただきました。元吉本興業のお笑い芸人、宮根誠司さんと同級生という多彩な経歴のもと、大きな声、大きなジェスチャーでお話され、1時間少々があっという間に過ぎ、もう1時間欲しいと思うひと時でした。中村さんは日本笑い学

会員・BSSラジオ「介護クラブ」パーソナリティーもされていて、年間120講演を全国各地で開き、忙しく活躍されています。

来年度も楽しい「健康まつり」を開催したいと思いますのでよろしくお願い致します。また、健康チェック(骨密度測定、血圧測定、足指力測定、塩分・糖度測定)はいかがでしたか? 他にご希望等がございましたらお気軽にお申し出ください。そして、健康スポーツ部と一緒に活動してみようと思われましたら、お気軽に荘原コミセンにご連絡ください。



11/10
(日)

歴史講演会「莊原にも戦争があった」

— 昭和20年(1945年)に急造された海軍の新川航空基地と7月28日空襲を中心に —

まちづくり部

講師：池橋達雄氏

講師さん作成の詳細な資料をもとに、当時旧制大社中学在学中であったご自身の体験も交えた、太平洋戦争末期のお話を聞きました。

初めは学童の疎開と分散授業についてでした。昭和20年(1945年)7月段階で、大阪市西区の旧堀江国民学校(小学校)の児童130名が、莊原地区の5つの寺に疎開してきたこと、県内でも同じ年の3月には、初等科児童は疎開したり寺社などに分かれて授業を受けたことなどのお話がありました。これについて、特に大阪の児童は、今までとは大きく異なる環境に置かれて、計り知れない寂しさ、苦悩を感じ、中には戦争に対して疑問を抱いた児童もいたのではないかと思います。

次に「大社基地」についてです。昭和20年3月、出西地区を中心に海軍航空基地が急造されることになりました。工事には、海軍の将兵・予科練習生の他、一般の人、国民学校の児童に至るまで、おびただしい人たちが動員され、この年の5月に第1期工事が終わりました。このお話から、特に一般の人が、大切な日常や将来を犠牲にして工事に従事した事実を改めて知り、戦争の理不尽さを強く心に感じました。

この基地の中心となるものは、幅60メートル・長さ1,500メートルの滑走路で、陸上攻撃機「銀河」の発着用のものです。魚雷庫・爆弾庫なども出西地区の山の方に造られました。人間爆弾「桜花」も配備されました。銀河は新鋭機で、新川基地からは九州南方海上や沖縄方面へ出撃し、30名以上の戦死者が出たそうです。しかし、この基地から特攻隊は出ませんでしたし、基地の将兵が特攻に出撃したことはありませんでした。このお話を聞き、結果的に特攻の出撃がなかったことはせめてもの救いでした。

そして、昭和20年7月28日、出雲地方は米軍艦載機の空襲を受けました。この日昼過ぎ、米子方面から飛来した米軍機の機銃掃射を受け、新川基地などで将兵3名、さらに玉湯町沖で将兵20数名、玉造温泉



駅東では客車の10数名の民間人を死亡させました。講師さんは、この日松江で行われていた少年通信兵講習の昼休憩時に空襲を受けましたが、幸い無事でした。莊原も空襲を受け、水遊び中の子どもたちが襲われるなどしましたが、こちらにも被害はありませんでした。

このように、莊原では空襲による犠牲者は出なかったとのお話でした。一方で、人々の爆撃への恐怖は途方もないのであったと伝え聞いていますし、容易に想像できるように思います。

昭和20年8月15日、わが国はポツダム宣言を受諾して連合軍に降伏し、太平洋戦争は終わりました。明治27年(日清戦争)から昭和20年(太平洋戦争)までの、莊原地区の戦没者は合計225名になります。

今回の講演を聞き、改めて現在の日本の平和は、戦争によるたくさんの犠牲の上に成り立っていることを、もう一度確認しなければならないと強く感じました。

11/19
(火)

クリスマスツリー作り

ふれあい交流部

11月19日、畑容子先生のご指導のもと、クリスマスツリー作りをしました。吸水スポンジに枝を挿し、ツリーの形を作っていくのですが、これがなかなか難しく、いつの間にか作業に没頭、夢中になっていました。同じ材料を使っても、なぜか不思議と個性が出ます。先生によると、水を足せば、クリスマスはもちろんお正月も迎えられるとのこと。長く飾ることができるのも嬉しい点ですね。



11/4 (月) 11/5 (火)

考えてみませんか。ふるさと庄原 笑顔の未来を コミセン運営委員、専門部合同研修で徳島県上勝町を訪問して

なぜ上勝町

人口約1500人(約800世帯)の上勝町を有名にしたのは年商2億6000万円を売り上げる「いりどり(はっば)」ビジネス、ゼロ・ウェイスト(*1)を理念とする「ごみ(分別)」を通じた町の再生です。今年年間3000人(視察者、取材者、外国人を含む)が訪れるのは、上勝町の「想い」の実現過程に自らの町の問題解決のヒントを見いだすためではないでしょうか。現在、上勝町はSDGs(*2)活動に参加し、町の「想い」のさらなる充実に努めています。二日間にわたって参加者24名が拝聴した町の委託を受けたスタッフによる説明(資料によると30ページ分)の内容の一端を以下に記したいと思います。

二つの「想い」は逆境の中で生まれた

昭和30年代6200人の町は林業が外材で敗れ、ミカンは大寒波により壊滅的な被害を受け、人口が半分に、過疎化、高齢化(約45%)が進み、諦めが先行した地域に「再び自信と誇りを取り戻す」との「想い」を持った当時JA職員であった横石知二氏が「そのためには仕事をつくり、まずは女性や高齢者に居場所と出番を与えることが大事」と考え、偶然立ち寄った店で「はっば」がビジネスになるとヒントを得、

農家すべてを訪問し、やっと4軒の農家の協力を得て昭和61年に新規事業が始まりました。以降、現場主義を貫き、現在出荷者は156軒、平均年齢70歳、自分のペースで出荷が可能、売り上げは一人当たり数万円から1000万円までのビジネスになっています。

ごみの分別は、県から野焼きを止める指導が入り、大型の焼却炉は町に財政的な余裕がなく設置できず、独自のごみ処理を考えるしかなかった中で、一人の行政職員が「子どもたちが空気が汚れた場所で育てたくない」と「想い」、行政が地域住民と説明会を重ね、平成3年コンポスト購入に対する補助をし、循環型への移行が始まり、平成15年には「ごみ(ゼロ・ウェイスト)宣言」(*3)を議会が行いました。現在ごみ処理場にかかっている「活かせば財産 分ければ資源」をスローガンとして、住民の方は自分のごみを45種類(*4)に分別し、かご等の中に入れる。そこには住民が分かるように業者の引取価格、廃棄した場合の処分価格が張り紙してあります。現在リサイクル活動(生ごみの全量たい肥化、ごみの分別資源化)、リユース活動(使えるが不要になったものの持ち出し、持ち帰り自由→



「くるくるショップ」とリメイク⇒「くるくる工房」、リデュース活動(循環できないごみの発生を抑える⇒認証制度の導入)などの様々な活動が行われています。

逆境の中なぜ「想い」は実ったのか

研修中はスタッフに対する質問も多く、車中では「あれはうちでもできる」、「こうすればもっと良いのでは」との意見が飛び交っていました。生産者の料亭での食事体験、料理のつまとしての「はっば」という商品に対する消費者との思いの一致は携帯端末を駆使する葉っぱビジネスを成功に導き、既存の老人施設が不要になり、改修し町営アパートに生まれ変わりました。また、ごみは「循環」で考えることが当たり前になりました。「想い」がかないました。そこには住民が正しく選択できる情報(「想い」と地域の力量に即した実現可能な方策)と実践の積み重ねがありました。自分たちのできる範囲での社会活動やビジネス活動への参加、その積み重ねは人々に色々なアイデアを生み、生き生きさせることを学ぶことができる貴重な研修でした。

庄原自治協会を中心とし、私たちの「想い」の実現がありました。小学校の東側通学路拡幅は地元の人の協力を得て実現しました。庄原駅の改修における壁画募金が当初予定の約2倍集まりました。選択できる具体的な方策として「想い」が提示され共有された時それは大きな力として発揮されることを皆さんも知っています。



- *1)「ゼロ・ウェイストとは、無駄・ごみ・浪費をなくすという意味。出てきた廃棄物をどう処理するのではなく、そもそもごみを生み出さないようにしようという考え方です。(ゼロ・ウェイストアカデミーより)」
- *2)持続可能な開発目標(SDGs)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。
- *3)未来の子どもたちにきれいな空気やおいしい水、豊かな大地を継承するため、2020年までに上勝町のごみをゼロにすることを決意し、上勝町みどりゼロ(ゼロ・ウェイスト)を宣言します。
- 1 地球を汚さない人づくりに努めます。
- 2 ごみの再利用・再資源化を進め、2020年までに廃却・埋め立て処分をなくす最善の努力をします。
- 3 地球環境をよくするため世界中に多くの仲間をつくります！
- *4)地域の人の意見を入れ、分別の時迷わず分りやすいようにしたので段々種類が増えた。



12/14 (土)

庄原タウンミーティング 見つけよう しょうばらの好きなところと良いところ



12月14日、庄原タウンミーティングはいい感じに終わりました。平均年齢はちと高めでも、若やいでにぎやかな会でした。雲南・大東にあるNPO法人「くらしアトリエ」の桐慈子代表と今若麻希子副代表のお二人にお世話いただきました。

アンケート「好きスキ・庄原、好きになる」を材料にしたみごとなワークショップでした。私たちは出雲・庄原という環境に暮らしています。十人十色で見えている庄原は違います。いいところ探しをしたのです。

「世界中住んで満点の場所なんてない……だから今住む所のいい面に気がつき、磨いていく主体者の立場に立つ……色メガネを外して探すことで、ないない尽くしの呪いの言葉が前向きに変わる……ネガティブでも幸福感でも、それを口にする3ステップ先まで伝わっていく……好きになって、周囲に伝えていこう」とお二人は訴えられました。

その役割は誰がやる? シビックプライド(市民的誇り)を持つ人です。郷土愛という言葉は移り住んだ新住民を排除するのに対し、シビックプライドは、現に住む人で当事者意識を持って自分に出来ることをしようとする住民のことを言います。庄原好きだとSNSに投稿する、祭りをブログに書く、地元商店で買う。庄原にとっては重要な人的資源です。

庄原の白地図(ステキなイラスト入り)に絵や字で書き入れるワークも楽しかったです。そして発表。さらに架空の30代A美さん、50代B彦さんなどに、庄原に移り住むよう説得する材料を言葉にしました。参加者の意欲は俄然盛り上がりしました。

最後に参加者全員が使命を与えられました。帰ったらまず家族に、3ステップ先まで行くように、**庄原いいね!** のメッセージを伝えよう。

誰かがやってくれるものではありません。受け身から能動の姿勢に転じて新しい何かを見つけて……我が町・庄原のいいところを好きになる……あなたが、口に出し、手と頭を動かせば、きっと変わります。



庄原タウンミーティング(写真提供:くらしアトリエ)

12/1 (日)

しめ縄づくり



令和元年12月1日(日)、庄原地区社会福祉協議会、庄原小学校PTAと共催でしめ縄作りを行いました。しかし、縄を擣(う)作業はなかなか難しく、皆四苦八苦。達人はまるで魔法のように縄をより合わせていかれますが……。今回使った縄は、この行事のために、夏に刈り取られ、冷暗所で保存してあったもち米の稲。青々とした藁はとても良い香りがして、新年をこのしめ飾りと共に迎えられることが嬉しくなります。

下は保育園児から上は80代まで、幅広い年齢層で賑やかに和やかに行われたしめ縄作り。中には、お子さんが小学生の頃に参加され、再び10数年ぶりに親子で参加してくださった方もいらっしゃいました。こうして大人も子どもも楽しみながら伝統行事が受け継がれていくのはとても素敵なことです。



頑張ったご褒美はおにぎりとお汁

12/17 (火)

ふれあい交流部

「男の料理教室〜おつまみ編〜」開催しました!



おつまみ編……ということで今回作ったのは、「豚バラ肉のレタス巻き」「鮭フレークとチーズの餃子」「枝豆ペペロンチーノ」「オイルサーディンアヒージョ」「のり塩ポテト」……と、正にビールが欲しくなるようなメニュー。(午前中開催だったので、お茶で頂きました)

今回は魚メニューもいいかな……芋煮もいいんじゃないか……夕方開催にしてそのまま飲み会に行こうか……なんて意見も飛び出しつつの楽しい料理教室となりました!

1班
11/12
(火)

2班
11/21
(木)

3班
11/22
(金)

おいでませの会

12月

斐川地域社会福祉法人の 地域貢献によるサロン訪問

1班 11/12 金太郎の家
2班 11/21 グループホーム出東ララ
3班 11/22 斐川サンホーム

それぞれの社会福祉法人から職員の方に来ていただき、介護予防の体操や脳トレゲーム等で体も心もほぐれ楽しいひとときを過ごしました。会員さんもボランティアさんも来られたときよりも更に元気になって帰られました。

12月はそれまでに
テラウーヤレンジメントを
お正月飾りにしたりしたの
で、来月が早い年で
ありますように!!



12/12
(木)

喫茶やまもも クリスマス会

喫茶部

女性クラブ
「やまももの会」

毎月「おいでませ館」で開いている喫茶の場をコミセン集会室に変え「喫茶やまももクリスマス会」を行いました。

「やまももの会」会員有志によるハンドベルの演奏で始まり、出雲市内を中心に活動しておられるママさん音楽ユニット「ママレモン」のみなさんのピアノ、フルートの演奏、きれいな歌声に会場は温かい雰囲気になりました。

また、当日は地元産の野菜、パン、焼き菓子の販売もあり、みなさんに喜んでいただきました。

「喫茶やまもも」は毎月、小さなお子さん連れのお母さんから高齢者のみなさんまで様々な年代の方にきていただき、みなさんの交流の場の提供をしています。来年も第2木曜日の午前10時～12時の間、「おいでませ館」で開店します。内容もいろいろ工夫してお待ちしています。ぜひ、お立ち寄りください。



11/30
(土)

第2回 森の学習会

環境福祉部



自然観察指導員の青木充之さんを講師に迎え、第2回森の学習会「宍道森林公園観察会」を開催しました。晩秋の宍道森林公園を講師の先生の説明を聞きながら歩き、豊かな自然を満喫しました。会員外の方にも声をかけ参加していただき交流をしました。

11/23
(土)

料理教室開催

料理部

ベテラン主婦の料理教室で6品目ですが、あっという間にできました。和気あいあいとお喋りしながらの試食タイムも盛り上がり、楽しい料理教室となりました。



★メニュー★
Cooklog
・ほうろくの炊き込みご飯
・鶏手羽先のトマト煮
・餅の白和え・味噌味噌汁
・薄切りに大根の明太マヨはざめ
・サッマイモのプリン

11/29
(金)

荘原子どもエコクラブ

餅つき 荘原小学校体育館

5月に田植えをし、みんなで「あいがも農法」でもち米づくりを始めました。代掻きの終わった田んぼに素足で入って、ぬるぬるした土に気持ち悪いといいながら、一生懸命苗を3本つかんで植えていきました。9月の稲刈りのときは、土も乾き長靴を履いて鎌をもって稲刈りをしました。

そして待望の餅つきです。みんなで育て、みんなですいた餅の味は格別でお代りをしてたくさん食べました。おうちにも少しずつ持って帰り、家の人と分けて食べたそうです。

自然の恵みを感じ故郷の味をしっかりと噛みしめ、「いつか大きくなってから思い出してくれるといいなあ」と思っています。子どもたちとの交流で私たち大人も元気をいっぱいいただきました。



もちつき



12/7
(土)

放課後子ども教室

放課後子どもクッキング

食創工房「レコルト」のシェフ 伊藤裕樹さんとクレープづくりをしました!!

クレープの生地は卵、砂糖、粉を混ぜてフライパンで焼いて作ります。自分用のクレープを焼き、中にクリームやスポンジケーキをカットしたものを包み、お皿にのせて、生クリームや果物、ジャムを飾り、それぞれに個性あるクレープが完成しました。

「レコルト」さんからイチゴやチョコレート等をいただいて豪華なトッピングとなりました。

プロのわざを目を丸くしてのぞき込み、いつもと違うお菓子作りのクッキングでした。



12/10
(火)

12/19
(木)

12/20
(金)

そば打ち教室
きょうばくの会

～おいでませの会 12月10日、19日、20日に蕎麦をふるまう～



「きょうばくの会」は今年度から立ち上げた「そば打ちの教室」です。

新田上自治会の糸賀充さんを講師に、月1回そば打ちをしています。初めはぎこちない手つきでしたが、回を重ねるごとに上手になりました。今回、「おいでませの会」の12月のサロンで食べていただきました。新蕎麦の香り高い打ちたての蕎麦は、皆さんの気持ちをほっこりさせました。新会員さんも募集しています。あなたもそば打ち名人に挑戦してみませんか。

環境委員のみなさまへお願い

出雲市環境保全連合会荘原支部

今年度の自治会美化活動が終了した自治会で、報告書の提出がまだの自治会は、提出をお願いします。

提出いただきました自治会には、出雲市指定の燃えるゴミ用ごみ袋(大10枚入)をお渡しします。(FAXで提出の場合は次月の文書配達でお届けします)

※提出の〆切 令和2年2月28日(金)

※注意

- ・リサイクルステーションへの出し方はルールを厳守(資源ごみとしてリサイクルされます)
- ・リサイクルステーション閉鎖の時に入口に置かない(ポイ捨て禁止!!)
- ・コミセン敷地内に空き缶、たばこの吸い殻等捨てないでください(マナーを守りましょう)

★表彰★

12/2
(月)

健康づくりの グループ表彰

出雲圏域健康長寿しまね推進会議

出雲圏域 健康長寿しまね推進会議 継続賞(活動5年以上)に「秋桜サロン」、「幸町サロン」の2団体が表彰されました。

2団体とも積極的に活動されています。受賞おめでとうございます。



「ねんりんピック紀の国わかやま2019」 団体戦で見事3位

荘原コミセン囲碁教室の黒田裕文さんが、島根県代表(島根県トップ3に選出)として、和歌山県で行われた全国大会「ねんりんピック紀の国わかやま2019」に出場、団体戦で見事3位に入賞されました! おめでとうございます!!



紀州漆器の
素数な銅メダル

黒田裕文さんのコメント

令和元年11月9日より12日にかけて行われた「ねんりんピック紀の国わかやま2019」の囲碁の部に島根県チーム(3人組)の島根県代表の一員として参加しました。日本全国よりもチームが代表として参加しましたが、運よく3位に入ることが出来ました。

最高齢の42歳のお爺さんが参加しておられました。生涯現役の方を口あたりにし、感激した3日間の大会でした。

令和2年度荘原コミュニティセンター 団体育成補助金のご案内

～荘原地区の元気な団体を応援します!～

- 対象:地域の事業及び活動を行う荘原地区の団体、グループ(営利を目的としない)を募集します。
- 目的:各団体グループ育成支援により、地域の活性化につなげる。
- 助成額:1団体につき2万円程度(5団体)
- 締め切り:3月27日(金)

令和2年度 小地域サロン立ち上げを応援します!

地域の繋がりが希薄になりつつあります。災害時にもっとも頼りになるのはお隣さんです。

サロン活動はいままでのお茶会です。軽い体操や健康に関するお話を聞いたりして地域交流をしましょう。自治会単位、近隣自治会での小サロン立ち上げをされる団体に講師謝金、お茶代等の費用の一部を助成することが出来ます。詳しくは荘原コミセンにお問い合わせ下さい。

荘原コミセン大掃除

12月16日、荘原コミセンの教室やサークルの皆さんにご協力していただき、大掃除を行いました! 普段手が届きにくい場所なども丁寧に掃除してくださり、おかげさまで良い年が迎えられそうです。大掃除に参加して下さった皆様に御礼申し上げます。



ご寄付御礼

香典返し 金一封

築崎 勉様(中央東自治会)
皆尾 一則様(北本町自治会)
小松原律夫様(新生本町自治会)
原 秀範様(新田下自治会)
須田祐司様(北新町自治会)

皆様から寄せいただきましたお志は、荘原地区社会福祉事業に活用させていただきます。誠にありがとうございます。